

# 営農情報(令和5年11月)

作成・監修 勝浦町農業振興推進班

## ■温州みかん

本年は、裏年まわりの樹が多く、生産量は前年を下回ると予想していましたが、昨夏の多量落果の影響から、着果している樹も多く、全体では前年並みの収穫量が見込まれます。

果実品質は、梅雨明け後の高温乾燥を経て、その後定期的な降雨により果実肥大は進み、病害虫の発生も少なく、秋季の好天もあり順調に経過してきました。

### ◇収穫

- ・開花が早く果肉先熟となっているので、着色の進んだ果実から始め、分割して収穫する。
- ・貯蔵する果実は次の対策を徹底する。
  - ①収穫前の薬剤散布を確実に行うこと。
  - ②果実にハサミ傷等をつけないよう丁寧に扱うこと。
  - ③雨露を避け、天候が良好な日に収穫すること。
  - ④コンテナ等収穫用具類は、洗浄等で清潔にしておくこと。

時期	対象病害虫	薬剤名	希釈倍数	収穫前日数	使用回数
発生時	カメムシ類	スタークル(顆水)	2,000	前日	3回以内
		ロディー(乳)	2,000	7日	4回 "
発生時	ミカンハダニ	ダニオーテ(フ)	3,000	前日	1回
		オマイト(水)	750	7日	2回以内
収穫前	貯蔵病害	ベンレート(水)加用	4,000	前日	4回 "
		ベフラン(液)25 または	2,000	前日	併せて3回以内
		ベフトップジン(フ)	1,500	7日	
	(固着剤)	(アビオン-E)	500~1,000	—	—

注1) ベンレートとベフランの混用は、ベンレートを先に溶かす

注2) アビオン-Eは、薬剤の前に最初に溶かす。

注3) 薬液が霧状になるノズルを使用し、果実中心に散布する。

注4) 散布後100mm以上の降雨があった場合は再散布する。

## ■うめ

- ・冬季剪定は11~12月の休眠期間中に行う。
- ・施肥は、11月上旬~12月上旬に窒素成分で6kg/10a 施用する。(例:ニュー梅配合=50kg)
- ・休眠期に苦土石灰100kg/10aを施用する。

## ■キウイフルーツ

### ◇収穫

- ・収穫前には貯蔵病害(灰色かび病)防除を必ず行う。
- ・収穫は、11月上中旬が適期になるので遅れないようにする。
- ・早期軟化や腐敗を予防するため、丁寧に扱う。収穫後は24時間以内に冷蔵貯蔵する。

時期	対象病害虫	薬剤名	希釈倍数	収穫前日数	使用回数
収穫前	貯蔵病害	ロブラール(水)	1,500	前日	4回以内

## ■タマネギ

### ◇定植準備

- ・定植の目安 (早生=11月上旬、中生=11月中旬、晩生=11月中下旬)
- ・堆肥または発酵鶏ふん、苦土石灰、BMようりんなどの土壌改良資材を植付2週間前までに全面施用し、よくなじませる。発酵鶏糞を施用したら減肥する。
- ・元肥は、定植1週間前に全層に施用する(例:S555=60kg)。

### ◇植付け

- ・理想的な苗姿は、根元の太さ6mm程度、草丈25cm程度。
- ・根が深く張るため、露出しないよう2~3cmの深さに植えつけ、十分に灌水しておく。
- ・株間は10~13cm程度とする。
- ・定植後、雑草防除のためトレファノサイド粒剤2.5またはゴーゴーサン細粒剤Fを散布する。

## ■なのはな

### ◇摘芯

・側枝の生育を揃え、安定した収量を確保するために、頂花蕾が見えかけたら摘芯する。

### ◇施肥

- ・地温が下がると肥料の効きが鈍くなるので、早め早めに追肥を行う。
- ・追肥は、適当な水分がないと根から吸収できないので、土壌が乾燥したら灌水する。
- ・初回の追肥は定植の1か月後、その後は2週間ごとに10aあたりNK化成10kgを目安にする。

	対象病害虫	薬剤名	散布濃度	収穫前日数	使用回数
なのはな	アブラムシ	スタークル(顆)または	3,000倍	収穫3日前	2回以内
		パダンSG(水溶)または	1,500倍	収穫7日前	3回以内
		トランスフォーム(フ)	2,000倍	収穫前日	3回以内
なのはな	コナガ・ハスモンヨトウ	アフーム(乳)または	1,000倍	収穫7日前	2回以内
		ディアナSC	2,500倍	収穫前日	2回以内
なのはな	黒腐病・軟腐病	カスミンボルドーまたは	1,000倍	収穫14日前	3回以内
		コサイド3000	2,000倍	—	—

※非結球あぶらな科葉菜類に登録がある農薬は、なのはなに使用できます。

## 【第63回全国カンキツ大会 参加報告】 勝浦町いきいきファーマーズ 会長 長田喜廣

去る8月30日、31日三重県伊勢市において開催されました。本町からは私と副会長の中村顕也氏の2名が参加、コロナウイルスのため正式開催は4年ぶりとのことでした。

事例発表では、地元三重県からは「みえ紀南1号」と「高品質な極早生温州の栽培」と2名の発表があり高品質を目指して、マルチやマルドリ栽培への取り組みが発表され、他県の三ヶ日、西宇和からは「ミカン栽培の将来」「新たな担い手育成」についてと各産地の抱える悩みや将来への展望が示されていました。

2日目は国営パイロット志原団地では「みえ紀南一号」のマルドリ栽培とマイクロスプリンクラーを見学。マルドリについて今年は裏年になるのだろうか、大果でヤケ果が多くもう工夫が必要な状態。マイクロスプリンクラーについてはヤケ果が少なく効果が見られましたが水の豊富などこでないとできないとのことでした。

もう一方の(株)金山パイロットファームについては、11法人が合併した農園で総面積が37haと大変大規模な農園で我々が見学させていただいた西地郷園地も9haと広大で全園マルドリが設置されているとのこと。こちらは隔年結果もなくヤケ果も少ないようでした。緩傾斜10°から20°に均されて排水もよく、大型機械の導入も容易になるよう設計されており、大型SSによる散布も可能。ドローン散布も試験しており、50aを5分で散布できるが、使える農薬が少なくまだテストの段階とのこと。

本町の貯蔵ミカンとは真逆の産地ですが貯蔵のコストとマルチ、マルドリのコストを比較しながらそれぞれの産地が様々な方法で品質向上への模索が続けられています。また各産地とも少人数ながら若手の後継者も見られるようになり柑橘産業が次への一歩と進もうとしているようです。

## 【いきいきファーマーズ高知県土佐文旦視察報告】 徳島農業支援センター 主任 大西祐子

10月12日(木)勝浦いきいきファーマーズの高知県土佐市への土佐文旦視察に同行しました。土佐文旦の栽培農家赤木茂好さんの園地(露地210a)を訪問したところ、勝浦みかん園地以上の急斜面に植えられており驚きの声が上がりましたが、急斜面である理由は、水はけが良く、高糖度の美味しい文旦を栽培するためで、特選品は糖度17度を上回るそうです。出荷価格は青果で800円/kg、8,000円/10kg/1ケース、加工用200円/10kg。高品質果実生産を目指した栽培管理が行われており、5月の授粉作業と7~10月の摘果作業に労力を要し、作業効率化のため、剪定ばさみや授粉棒等の道具を特注するなど様々な工夫をされていました。品目は異なりますが、他産地の生産者との意見交換、急斜面での農作業や様々な工夫等、参考になるところは多く有意義な視察となりました。

### <お問い合わせ先>

勝浦町農業振興推進班

勝浦町農業振興課42-1505 JA営農振興課088-538-7180 徳島農業支援センター088-626-8768